

竹島

オンボ崎と遣唐使漂着伝説  
 南西諸島北部は、遣唐使の航路上にあるためか、遣唐使漂着の伝承が複数ある。そのうち『日本書紀』にある第二回遣唐使の遭難(六五三年)が歴史上確かとされる。

この時に遭難したのは遣唐使船二隻のうち第二船で、大使の高田根麻呂(たかたのねまろ)ら百二十人のうち、五人だけ竹島に漂着して生き残ったという。竹島の伝承では、船の板につかまった五人は竹島の小アビ山に漂着、崖を登り竹やぶを抜け、血みどろで人里へ着く。島民の看護で一命をとりとめた。その後、五人は同僚の遺体を火葬して、竹の筏で都へ戻ったという。

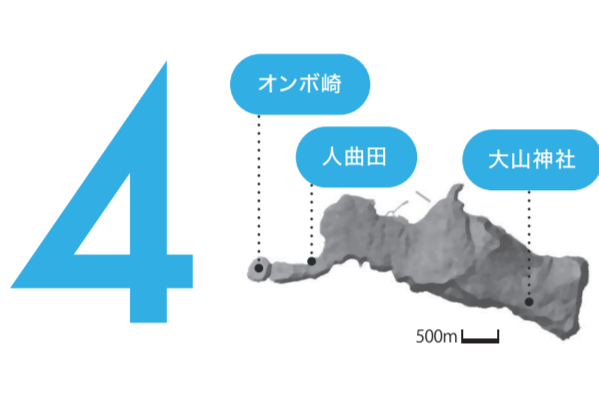
竹島にはこの遭難事故の痕跡が今も残る。遭難者はみな体を『くの字』にして亡くなったおり、遺体が多くあがった場所は『人曲田(ひとまげた)』と呼ばれる。そして小アビ山には亡くなった大使を祀る大山神社<sup>①</sup>がある。神社の名は、大使であった高田根麻呂の冠位『大山下(だいさんげ)』に由来する。

あがった遺体はオンボ岬で火葬したという。悲しい歴史のあるオンボ崎だが、いまは硫黄岳と鹿児島本土を展望できる<sup>②</sup>穏やかな場所でもある。

思い出話

「中学生の頃にオンボ崎にあったキャンプ場<sup>③</sup>に行きました。黒島にない見はらして、海や夕陽や、島影が鮮やかな朝の風景を覚えています。肝試しで初めてサソリモドキを見て驚きました。」

片泊地区三〇代女性



日	月	火	水	木	金	土
27	28	29	30	31	1 ● 新月 旧 3/1	2 ● 旧 3/2
3 ● 旧 3/3	4 ● 旧 3/4	5 ● 旧 3/5	6 ● 旧 3/6	7 ● 旧 3/7	8 ● 旧 3/8	9 ● 上弦 旧 3/9
10 ○ 旧 3/10	11 ○ 旧 3/11	12 ○ 旧 3/12	13 ○ 旧 3/13	14 ○ 旧 3/14	15 ○ 旧 3/15	16 ○ 旧 3/16
17 ○ 満月 旧 3/17	18 ○ 旧 3/18	19 ○ 旧 3/19	20 ○ 旧 3/20	21 ○ 旧 3/21	22 ○ 旧 3/22	23 ○ 下弦 旧 3/23
24 ● 旧 3/24	25 ● 旧 3/25	26 ● 旧 3/26	27 ● 旧 3/27	28 ● 旧 3/28	29 ● 昭和の日 旧 3/29	30 ● 旧 3/30